



創立148年

石積っ子

教育目標 **さいごまでやりぬく子 からだをきたえる子 もとめて学ぶ子 ともを大切に**する子

坂本小だより 令和5年2月号

児童数539名 2/1

坂本小HP <http://www.otsu.ed.jp/skmt/>

【校長 上島 憲一】

『コロナの転機に』～これからどうフォローしていくか～

先日の大寒波の到来もあり、雪の多い冬を感じさせます。その辛抱の冬を越し、明るい春へ切り替わる立春「節分」が間近に迫り、暦の上ではまもなく春です。しかしながら、新型コロナに加えて3年ぶりにインフルエンザも流行の兆しを見せ、本校でも1月後半に学級閉鎖を行いました。2月に入ってもインフルエンザによる欠席連絡が続きます。状況によっては、行事等の予定変更や日課変更をも想定しながら3学期の教育活動を進めていかなければならない状況であることは確かです。

一方、社会全体ではGW明けに実現しそうな新型コロナの5類移行に向けて、あらゆる場面での緩和策が出されています。厚生労働省によるマスク着用についての指針も、現在、屋外なら会話場面であっても距離をとれば必要なし、屋内でも会話のほとんど無い図書館や博物館では距離をとることでマスクの必要なしとなっています。もちろん、その人のおかれている状況によってマスクの付け外しは個人の判断によりますが、必要ではない場面が増えていくのは確実です。つまり、以前のように顔全体の表情から相手の感情を感じ取っていた日常に戻るといえることです。

マスクの功罪や外すことの抵抗、その準備については、熱中症の心配される時期に学校だよりでも触れましたが、先日の新聞記事でも3年間のコロナ禍での生活による子ども達への影響が「大人の表情まねられず」や「感性 言葉 育ちにくく」という見出しとともに掲載されていました。今後は、マスクで顔を覆うことや身体接触を無くして過ごしてきた「非日常」への今後のフォローが大切なのではないのでしょうか。

その記事によると、

- ◇ 子ども達同士が互いに喜んでいるのか怒っているのかを読み取れず、けんかになるトラブルが増えた。(保育士 談)
- ◇ 乳幼児は、相手の口元を見る時期があり、それが言葉の発達につながっていると考えられている。(東大発達保育実践政策学センター准教授 談)
- ◇ 幼少期は大人の表情をまねて感じる気持ちから相手の心理を理解する時期である。他人の表情がわかりにくくなることで人と喜びや悲しみを共有する感性が育たなくなる可能性がある。(同)
- ◇ 子どもの動作時のバランス能力が低下した。(名古屋大研究チーム 調査結果)
- ◇ 情緒が不安定になっている児童が増えた実感がある。(教育現場に詳しい保健師 談)
- ◇ コロナが流行した21年は、幼児の言語とそれ以外の認知力が大幅に低下していた。特に20年半ば以降に生まれた子の認知力が低下している。原因を調べる必要がある。(米ブラウン大の研究者の論文)
- ◇ 子どもは伝えたいことを伝えられないと孤独や不安を感じたり自己肯定感が得られなかったりする可能性が出てくる。21年度に不登校が過去最大の増加であったこととも関連しているだろう。(京大教授 談)

このように、コロナ禍の3年間をあらためて振り返り、いろいろな調査研究が明らかになってきています。難しいことはわかりませんが、子ども達の発達にとってあたりまえだったことが3年間制限されてきたということは事実です。すぐに安心してよいというわけではありませんが、5類への移行や様々な緩和を機に子どもたちに必要な生活様式を取り戻し、しっかりとフォローしていかなければならないと思っています。

まずは、学校での生活を、流行の波や状況をみながら本来の日常へ……。



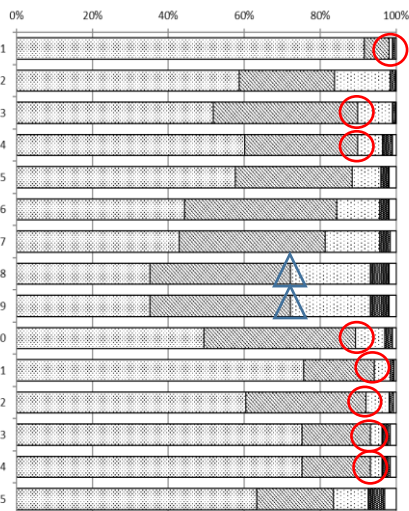
〈2月、3月の主な学校行事 2/1現在〉

今後変更になることもありますので各学年の通信等でお確かめください。

--	--

令和4年度 学校評価（教育アンケート結果より）

児童 (9年生以上)	質問項目	今年度	昨年度	
全般	1 学校生活は楽しい。	3.4	3.4	
	健やかな体	2 体を動かして運動するのが楽しい。	3.4	3.4
		3 がやがや病気をしないように、安全や健康に気をつけて生活している。	3.4	3.3
		4 不審人がいたり、地震や火災などが起こったとき、どうしたらよいかわっている。	3.5	3.5
確かな学力	5 「坂本っ子の学習」（筆箱の中身、定規で線を引くなど）ができる。	3.5	3.6	
	6 学校の勉強は、よくわかる。	3.3	3.3	
	7 友だちと考えを出し合って答えを出す学習は楽しい。	3.2	3.2	
	8 自分から進んで宿題や家庭学習をしている。	3	3.1	
豊かな心・社会性	9 自分から進んで読書をしている。	3		
	10 道徳の時間には、様々な場面の気持ちや考えたり、友だちの考えを聴いたりして、学習している。	3.4	3.4	
	11 学級の友だちと仲良くできている。	3.7	3.6	
	12 「あいさつ」や「はきものそろえ」をがんばっている。	3.5	3.4	
学校の対応	13 学校の体験活動は楽しい。	3.7		
	14 いじめなどの問題を心配せず、安心して学校生活を送れている。	3.7	3.6	
	15 困ったことや心配ごとなどを相談できる人がいる。	3.5	3.4	
	平均	3.4	3.4	



〈全般〉

おおむね楽しく学校で生活できているとの回答は90%を超えた。with コロナと言われ始め、少しずつ活動が広がりつつある中で子どもたちが学校生活を楽しんでいることをうれしく思います。

〈健やかな体〉

体育科の学習内容や、なわとびジャンピングボードのように進んで体を動かせる環境づくりを工夫しながら、体力の維持を目指したいと考えます。

〈確かな学力〉

10分間×学年＝家庭学習を目安に、学校での学習と家庭学習が結びつくような工夫をし、学びの習慣化を目指しています。

また、学校においても、協働的な学びを大事にし、個に応じた指導を充実させ、今後も「できた、わかった」を目指して、算数科を中心とした少人数指導や個別指導を大切に、積極的に取り組んでいきたいと考えます。

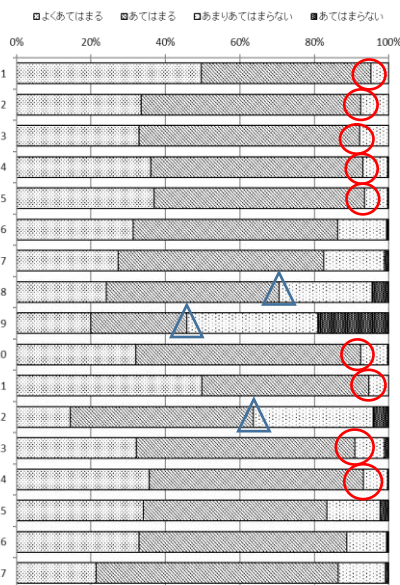
〈豊かな心・社会性〉

学校全体で取り組んでいる六つ星のあいさつ、靴そろえ「かかと、ピタッ」の習慣が昨年度より定着しています。いつでもどこでもあたりまえに実行できることが、本校児童一人ひとりの自慢となるように今後も大切にしていきたいと考えます。

〈学校の対応〉

定期的な生活アンケートおよび教育相談を実施しています。しかし、それだけでは把握できないことがありました。子どもと教職員の心のつながりを大切にし、アンケート実施の回数や教職員の見守り活動を増やして、いじめや問題行動等に対して、引き継ぎ早期発見、早期対応、組織対応に心がけチーム坂本として取り組みます。

保護者	質問項目	今年度	昨年度	
全般	1 お子さんは、楽しく学校生活を送っている。	3.4	3.5	
	健やかな体	2 学校は、体力の向上のための適切な指導、取組をしている。	3.3	3.3
		3 学校は、健康の保持増進のための適切な指導や取組をしている。	3.3	3.4
		4 学校は、事故防止に努め、子どもの安全についての適切な指導や取組をしている。	3.3	3.4
確かな学力	5 学校は、各教科の基礎的・基本的な内容を習得させている。	3.3	3.4	
	6 学校は、よく考え、進んで学ぶ力が育つような指導をしている。	3.2	3.3	
	7 お子さんは、授業がわかりやすいと言っている。	3.1	3.2	
	8 お子さんは、家庭学習の習慣が身についている。	2.9	2.9	
豊かな心・社会性	9 お子さんは、読書の習慣が身についている。	3.2		
	10 学校は、道徳教育の充実に向け取り組んでいる。	3.2	3.3	
	11 お子さんは、学級の子と仲良くできている。	3.4	3.5	
	12 お子さんは、家庭や地域でしっかりあいさつをして、はきものをそろえている。	2.7	2.8	
学校の対応	13 学校は、適切な体験活動に取り組んでいる。	3.2		
	14 学校は、いじめのない学級、学校づくりに取り組んでいる。	3.3	3.3	
	15 学校は、子どものことについて相談しやすい。	3.2	3.2	
	16 学校は、学校だよりや各種だより、ホームページでわかりやすく情報発信している。	3.2	3.3	
	17 学校は、保護者や地域の願いを教育活動に反映している。	3.1	3.2	
	平均	3.3	3.3	
	回収率(%)	61	89	



今年度から Forms による回答方法に変わったことが原因と思われるが、回収率の低さが残念。

さらに、これらの結果をもとに自己評価（職員）し、関係者による評価（評価委員会）を実施します。その後、学校運営協議会で熟議して次年度へつなげていきます。次年度の方針は3月以降に掲載させていただきます。



〈1月の様子〉

〈どんど焼き〉
〈募金活動〉
〈FS〉



〈中学入学説明会〉
〈大雪警報〉
〈百人一首〉